



### 『伝承のたまてばこ』の名前の由来は？

**木村** 身近な名前が良いなと思っていたので、“多摩”をもじって『たまてばこ』と名付けました。会場の一つでもあるいちようホール所在地、八王子市本町の山車に浦島太郎の人形が飾られていて、ご縁を感じました。“伝承”という言葉には、ただ伝統を紹介だけでなく、継承している人々にスポットを当てたいという思いを込めています。

### お二人に“個人的”おススメの演目を聞いてみました♪

#### 東京都立 狛江高等学校箏曲部

**安田さん's Select!** これまでコロナ禍で活動や、発表の機会が限られていたとお聞きしています。そんな中でも懸命に練習を重ねてきた高校生の力強い演奏を聴ける機会を私も楽しみにしています。



#### 特別コラボレーション企画 『HIKARIのたまてばこ』

**木村さん's Select!** 八王子城で出土されたベネチアガラスの破片をモチーフにして、車人形とプロジェクトアクションマッピング、ブレイクダンスで新たな表現に挑戦します。9/9(金)～10/2(日)に八王子博物館『はちばこ』で展示されるベネチア産レースガラス器もご覧ください！



### これまでの『たまてばこ』で得たこと、今後に向けての意気込みは？

**安田** 平成28年に始まり、総計13万人を超えるお客様にお楽しみいただいています。コロナ禍で2020年は中止、昨年はオンライン開催となりましたが、配信の再生回数は合計1.5万回以上。また、多摩地域の伝統文化を紹介するホームページも新たに立ち上げ、まだまだ進化を続けています。

### 多摩地域の伝統文化が一堂に会することの意義とは・・・？

**安田** お客様に多摩の伝統文化をご紹介できるだけでなく、出演団体の皆さまにとってもお互いに刺激を受け合う機会として、貴重だと感じています。  
**木村** 今回展示する『軍道紙』も、八王子からあきる野に伝わって継承されていたり…そうやって、八王子で一度途切れてしまった文化が多摩全体を見渡すと繋がっているケースを、何度となく目にしてきました。多摩地域が一体となって一緒に歩んでいければ、消えかかっていた伝統文化も継承していけるのではないかと思います。



※新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更・中止となる場合がございます。

## 特集 伝承のたまてばこ

～多摩伝統文化フェスティバル2022～

9/17(土)・18(日) 各日 10:00～17:00

〈会場〉西放射線ユーロード、八王子市芸術文化会館 ほか

八王子駅周辺の街なかを舞台に、多摩地域の伝統文化が集結！  
誰もが気軽に多摩地域の伝統文化に触れられる2日間、お楽しみに♪

〈コラボレーション企画〉HIKARIのたまてばこ(八王子車人形・ブレイクダンス・プロジェクトアクションマッピング)

〈実演〉八王子芸妓衆、八王子車人形 西川古柳座、説経節の会、木遣、東京造形大学大学院 Hachioji 影絵プロジェクト、八王子祭囃子連合会、高松町お囃子保存会(立川市)、中神熊野神社祭礼獅子舞保存会(昭島市)、東京都立狛江高等学校箏曲部(狛江市)、菅生歌舞伎 菅生一座(あきる野市)、小河内の鹿島踊り(奥多摩町) ほか

〈展示〉ミキノクチ(福生市)、軍道紙(あきる野市) ほか

〈体験〉織物体験、昔の遊び体験、人力車乗車体験 〈お練り〉人力車巡行

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団

【助成・協力】東京都



詳細はホームページをご覧ください。

—今年の『伝承のたまてばこ』に向けた意気込みと、お客様へのメッセージをお願いします。  
今年はお練りに、より華やかさや重厚感が出るような、色々な工夫も考えています。これまでの『伝承のたまてばこ』を見て、皆さまに「良かった」と感じてもらうために、

—大洞さんにとって、八王子はどういう街ですか？  
もし別の街で生まれ育っていたら、自分はそこでも同じように何かを見つけて行動していたんじゃないかな。そういう人間なんです。ずっと八王子で過ごしてきたので、空気のようなもので。私にとってはただただ、泣きも笑いも、人との出会いも別れも含めて、過ごしてきた場所。これに尽きるかな！



坂福の前での写真

八王子市市神町に生まれ育ち、現在、甲州街道沿いにある料亭『坂福』店主を務める大洞敏男さん。

—料亭『坂福』を経営する傍ら、人力車を始めたきっかけは？  
『坂福』を継いでから40年、人力車を導入してからはもう18年になります。八王子の花柳界、芸妓衆を支える三業組合というものがあつたんですが、『坂福』の先々代が組合をつくったこともあつて、私も芸妓衆の見番に出入りしていたんですね。そこに昔、八王子で走っていた人力車の写真が残っていて、何気なく目にしました。ある時、中町の商店街(旧・明美会)の集まりで昔のように華やかな風情を街に取り戻せないだろう、か、という話が出て…。なんとか消えたものを目に見える形で表現できないかという思いで、ホームページを巡って浅草の岡崎屋という人力屋に問い合わせ、実際に浅草に行つて岡崎屋惣次郎さんに弟子入りしたんです。

—弟子入りすると、どんな稽古が待っていたのでしょうか？  
「人力屋坂福」と料亭『坂福』に共通する心とは？  
何よりも、お客様に喜んで帰ってもらいたいというのがこの料亭のお仕事。だから、お客様の来た時と帰る時の顔を必ず見ているんです。それは人力車も同じで、いい意味でびくつき、させたい、満足させたい、という気持ちで働くんですね。ある時、七五三のお祝いで来たご家族がいて、お子さんがすごく静かな子で。後で聞いたら耳が不自由だったそうなんです。がお食事

—「伝承のたまてばこ」には欠かせない存在、それは「人力車」。会場に散りばめられた舞台と舞台を繋ぐ、人々の思いを繋ぐ…そんな役割を担う、八王子の人力屋「坂福」大洞敏男さんに人力車の魅力について伺いました。



「喜んでもらいたい。その思いを乗せて、走る」  
八王子の人力屋『坂福』大洞敏男さんインタビュー



『伝承のたまてばこ』といえば、人力車6台に演者を乗せて練り歩く、「お練り」は必見！ 華やかな口上の後、「動」から「静」に空気が変わり、厳粛なお練りが始まる瞬間が見どころです。

えているんだと思うので、まずはその期待に応えられるように、格好よく演技したいと思っています。